

キバナノヤマオダマキ (オダマキ属)

オダマキとは昔、麻糸を巻いた管のことで、距の立った花の形がこれに似ている

この4月1日から奥多摩観光協会事務局長として勤務させていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。

皆様方には、イベントや事業に付きまして、日頃からご理解、ご協力をいただいております。事業の安定した実施や質の高いサービスに繋がっているものと、心から感謝いたします。

奥多摩町は全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれ、その豊かな自然を求めて、公共交通機関を利用する観光客も増加傾向にあり、その数は年間200万人を超えています。さらに、今年開催されるラグビーワールドカップ、来年の東京2020オリンピック・パラリンピック大会が迫り、これらの世界的な大会を契機として東京への多くの注目が集まっています。そうした影響を受けてか外国人観光客を目にすることも日常的となります。ますます来町者の増加が見込まれています。

町の第5期長期総合計画では、「みんなの力がつながる観光・産業づくり」として、様々な施策を展開し観光振興を図っています。奥多摩町の自然や生活に心を寄せていただいている皆様方にもこの観光事業の推進にぜひご協力いただきたいと思います。

私事になりますが、この町の大自然の中で人生の大半を暮らしてきました。登山を初めて経験した小・中学校の頃や町役場に入職当時(30年以上前)は、登山ブームの影響もあり、雲取山を始めとする登山者の数も多く、また当時山のマナーもそれほど徹底していなかったことから、山には多くのゴミが散乱し、地元としては頭を痛めていた時期でした。そして、登山者の皆様に気持ちよく奥多摩の山に来ていただくには何ができるだろうかと考えた末、毎年、春と秋に清掃登山に行ったものです。その頃から町内の主だった山へ登る機会にたびたび恵まれましたが、最近では登山者のマナーも随分と改善され奥多摩の山々も以前の美しさを取り戻し、安心して景色を眺めることができるようになりました。現在、奥多摩観光協会事務局長という町をPRできる最高のポストを与えられました。この機会に感謝し、気合を入れて足慣らし等で体力を付け、皆様と共に奥多摩の良さを再認識しながら気持ちを新たに奥多摩観光協会をリードしていきたいと考えています。

東京の人口が1400万人に迫ろうとしている現在、大都市で暮らす人々の「こころのオアシス」としての奥多摩の魅力を職員一同、一丸となって来町者にお伝えしていきたいと思っております。

奥多摩町観光協会事務局長 井上 永一



## 奥多摩山歩きワンポイントアドバイス ～夏山シーズン到来～

梅雨が明け、今年も奥多摩は涼を求める観光客でにぎわっている。重い荷物を背負って雲取山に挑戦する本格的な登山者から、サンダル履きで川遊びを目的に駅前に降り立つ若者まで、それぞれ奥多摩が大好きな人々である。

今回は山や川での活動で、動植物や自然現象それに自身の力量評価に潜む危険性について考えてみたい。

写真1はシソやアカソに一见似ているが、毛に触れると赤く腫れ、激しい痛みを感じるイラクサである。イラクサは蕁麻(じんま)とも呼ばれ、化学物質のヒスタミンが含まれている。蕁麻疹の名の起こりともなっていると云われている。



写真1: イラクサ



写真2: ツタウルシ

また、写真2はイワガラミやツルアジサイに似るが、葉が3枚のツタウルシでリュックサックを置いただけでも、ウルシオールに触れてアレルギーの人はかぶれる。熊やマムシには細心の注意を払うが、こうした道端の植物には無関心であることが多い。

自然現象や自身の力量評価に関しても、20年前のくろくらがわ玄倉川での水難事故(※1)や19年前のゆびそがわ湯檜曾川での鉄砲水(※2)また、13年前の本仁田山での落雷事故(※3)等教訓になることは多い。

アウトドアにおけるリスクは自然が相手である以上、これを皆無にすることはできないが、最小限にする努力は大切である。地形や天気をよく調べ、自分の力量を客観的に見積もることでリスクを最小限にしたい。

天気図や地形図に関しては既に取り挙げてきたので、今回はこれらも含めトータルのリスクマネジメントを提案しておきたい。

奥多摩をこよなく愛する皆さんが、無事に各自の希望をかなえ、笑顔で帰宅できることを願って筆を置く。

※1: 中州に取り残されたキャンパー18名中13名が死亡

※2: サッカー少年団の35名中13名が流された

※3: 著名な登山家が落雷の直撃を受け死亡

(富士 光男)

## イベント報告 ～川苔山～

令和元年5月8日 参加者23名ガイド7名、快晴の中、午前9時予定通り林道を出発。その参加者の皆さんの声を聞いてみました。

今回どのような目的でこのツアーに参加しましたか？

「私の大好きな川苔山であるし、シロヤシオも楽しみにしています。」「今回の川苔山は今まで歩いたことのない赤杭尾根なので楽しみです。」

歩行距離、約15km、所要時間、約8時間、晴天に恵まれ富士山もよく見えて、無事、古里駅に着くことが出来ました。

今回どんなところが良かったですか？

「久しぶりのアカヤシオと赤杭尾根が良かった。」「百尋の滝の急登が楽しかったです。」また、こんな方もいました。「3年前に1度参加したが足が痛くなり川苔山の山頂に立てなかった。そのリベンジに来ました。その時は荷物を持ってもらい、ガイドの人に『少し体を鍛えてから来い。』」と怒られたそうです。「その後ツアーに参加しつつ、自分でも1人で山に登るようになり昨年は75回山に登りました。今では古里駅から大塚山、御岳山、日の出山をマイコースとしてよく登っています。」マイコースを持ち登っているということは、季節ごとの自然を感じるとともに体力、体調の変化にも敏感に気づくようになり理想的だと思います。初めて会った時と比べると体つき、表情がキリッとしてきました。

また、こんなタフな方もいました。「前日御岳山のイベントに参加、2日連続での山登りになりましたが、今朝の体の調子をみて、大丈夫だと感じて参加しました。川苔山までの登りは気持ちよく歩きました。赤杭尾根は長くて下りが怖いので心配でしたが、大丈夫でした。来てよかったです。長くて険しいコースだったが楽しかったです。」

今回ガイドリーダーとして、非常にタフなコースで危険箇所もあり安全面を心配しましたが、皆さん健脚で何事もなく実施できました。ありがとうございました。(小峰 一郎)



# ～奥多摩の地質 その5～

## プレートテクトニクス概要と地質年代

プレートテクトニクス理論は 1960 年代から日本に入ってきました。それ以前の例えば造山運動はどのように説明されていたのでしょうか。

### 1. 地相斜理論

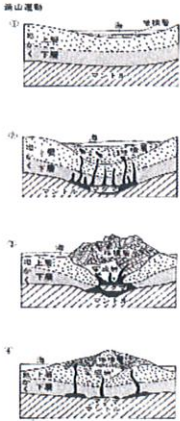


図5-1 地相斜理論 (日本列島ものがたりより)

私が50年以上前に高校で習っていた地学では、プレートテクトニクス理論はまだなく地相斜理論でした。今般、図書館で本理論の情報入手ができないでいたら、偶々、羽村市郷土博物館の図書室で図5-1 を入手できました。懐かしいので紹介します。地相斜と呼ばれる所に堆積物が溜まりその部分の重みで

マントル上部に達して突き破りマグマが上昇して造山運動がなされたという理論です。

### 2. 地球冷却収縮シワ理論 (筆者名づけ)

小学生の頃、父と粘土遊びのための“かまつち”をとっていた峠を越えて出かけたことがありました。「ここはもともと、水の底にあった場所。それが持ち上がって峠になったのは、地球ができた頃の頃は火の玉であったが、その後水が出現し冷えた事により、シワができて低いところが持ち上がり、このような峠ができた。」「豆を水に浸しておくとしワができるのと同じ」と説明を受けたのが忘れられません。今にして思うと荒っぽい説明で、前述の地相斜理論より古いものでした。

### 3. プレートテクトニクス

海嶺でマントル対流の上昇により噴出した玄武岩質



図5-2 プレートテクトニクス(奥多摩町誌より)

マグマが、プレートとして6千万年かけて移動し、日本列島に付加(付け加え)されたもの(図5-2)で、移動

している間にサンゴ礁を主とした石灰岩や放射虫の遺骸が海底に堆積したチャートなどの遠海洋性堆積物ができました。

### 3. プレートの沈み込みに伴う陸への付加

奥多摩の地質その4 鳩の巣溪谷の写真で示したように、陸原生の砂岩と、海洋堆積物のチャートが互層をなし、層状チャートは垂直になっていました。なぜそう

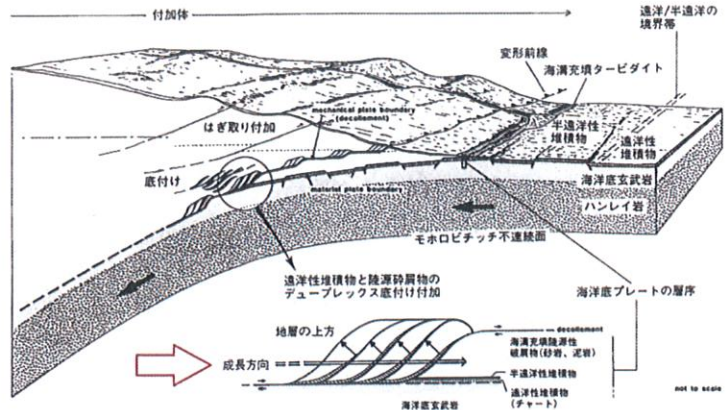


図5-3 付加体の模式的断面図(構造地質学より)

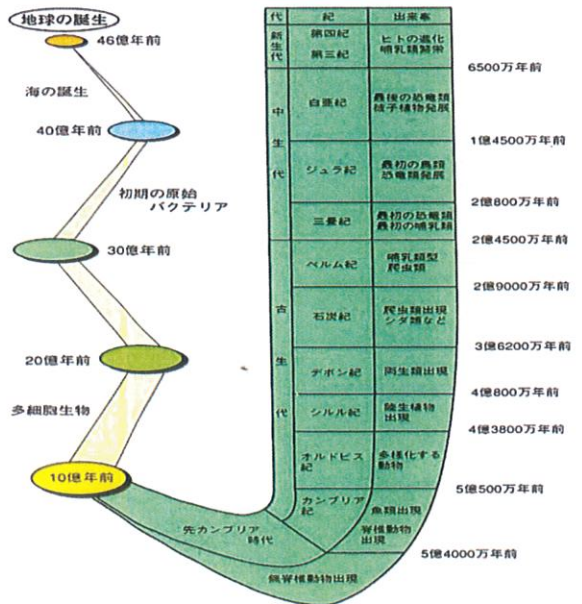
なったかを図5-3の模式図の矢印で説明できるのではと思います。(但し実際には海底地すべりの存在など極めて複雑です。)

### 4. 奥多摩の地質年代

地質年代については第1表の通りで、奥多摩の地層は中生代三畳紀から白亜紀で構成されています。

第1表 地球の歴史

(濱田隆士監修「恐竜を掘りにいく」(青春出版社)を一部改変)



参考資料 日本列島ものがたり (井尻正二 1979), 奥多摩町誌, 構造地質学, 東京都土木技術研究所奥多摩地区の地質 (久田他)・他 (本渡 康隆)

## 奥多摩樹木雑考

～ 尾根をあおぎ滝をめぐる ～

奥多摩駅前から海沢園地を目指して少し歩くと、右手に愛宕神社に続く尾根が見えてきます。この尾根筋で目を引く二種類の樹木があります。ひとつは、まわりの樹木の繁みから抜け出して、枝を斜上させてそびえ立つモミ、もうひとつは枝を少しくねらせながら横に張り、孤々と立ちすくむアカマツ。そのいずれもが、尾根という乾燥しやすい環境を選択し、適応した針葉樹のすがたです。

海沢園地から三ツ釜沿いの岩だらけの道にはササがほとんど生えておらず、すぐに数本のカツラの大木が目に入ります。時折水に洗われる岩肌には落ち葉も少なく、そのことがササの地下茎の生長を妨げ、また養分の貯えが少ない小さなカツラの種子が、落葉に邪魔されずに岩のすきまに根を下すことを可能にしているのでしょう。岩だらけの登り道では、アセビ、ネジキ、チドリノキ、オオバアサガラ、カエデなど、岩場の薄い土壤に適応した樹木がみられます。大滝への下り口の平尾根は、ほっとする森の空間です。“for rest” → Forest! 足元の感触も柔らかく、この環境を選んだ多くの種類の樹木が生えています。モミ、イヌガヤ、アオダモ、アカシデ、カラスザンショウ、カエデ、アブラチャン等々。倒れそうになりながら生えているカラスザンショウの巨木にはうたれます。その樹冠の上方は大きな空間が広がり、生長には十分な光が必要な陽樹のすがたがそこにはあります。

滝の水音を受けてふるえる緑、思わずカメラを向けたくくなります。でもここでは五感をとぎすませてみましょう。江戸末期の写真家たちは、カメラを「写真機」と呼ばなかったそうです。なぜならば、あくまでもカメラは“写真”ではないということであつたらしく、印影機、直写影鏡などと呼んでいたとのこと。改めて五感をはたらかせることの重みに気づかせられます。(橋上 一彦)



## 奥多摩の野鳥 (多摩川流域)

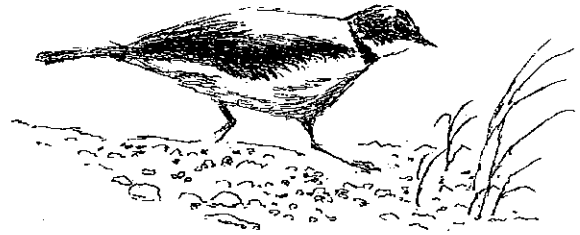
～ 水辺の鳥 ～

イカルチドリ： チドリ目・チドリ科 留鳥

全長21cm ドバトより小さい

シロチドリ、コチドリ： チドリ目・チドリ科

全長16cm くちばしが長く、脚も長いので、チドリ類の中では大柄



イカルチドリ

絵 大澤 新次

今回は河原で見かける野鳥を取り上げました。イカルチドリは留鳥で奥多摩ではよく見かける野鳥ですが、シロチドリ、コチドリと並ぶチドリ類の代表的な存在です。この3種とも川の中流部の川原のような丸い石がごろごろしているような場所で繁殖をします。巣は地面を浅く掘っただけの粗末な作りです。ただ、保護色の卵はまわりの石ころと同化しており天敵に見つかりにくい点では見事な巣といえます。餌は主に昆虫などの動物質を取り、植物性のものはあまり利用しない。産卵期は3～7月頃で抱卵期間は27日位です。う化したひなは、すぐに巣を離れればらくは親鳥について歩き餌をもらっていますが、成長は早く、自分で餌を取るようになります。

最近、河原に卵を生むチドリ類に大変な災難が降りかかっています。アウトドアでバーベキューを楽しむ人がRV車で河原に乗りつけタイヤで卵を踏み潰してしまう事が増えています。敵には見つからないはずの保護色は人間に気がつかれないで卵が踏み潰されて無残な最期を遂げる事が多くなっています。このままだと近い将来、河原で営巣するチドリ類、ヒバリなどは絶滅するのではないかと・・・非常な危機感がつります。このまま無策でよいのか？一刻も早く対策が望まれます。(畑 幸夫)

## とっておきの山歩きガイド

### 一山里歩きの楽しみ一

#### 丹生神社の地口行灯を訪ねる

奥多摩の8月は、獅子舞デー。ですが、今回は、江戸っ子の遊び心を今に伝える言葉遊びと面白い絵を箱行灯に貼った地口行灯を紹介します。獅子舞も神楽もありますが、丹三郎地区の夏祭りにお出かけください。今年は、8月3日(土)～4日(日)です。

古里駅から南へ。万世橋を渡り500mほど歩くと丹生神社があります。ここには、奥多摩町で唯一「地口行灯」を飾る風習が残されています。

地口とは、「三×五=十五(さんごじゅうご)」を「だんご十五」のように同じような言い方をし、違う意味を表すもので、万葉集から江戸っ子の言葉遊びに至るまで幅広い知識が求められます。

それでは、いくつか紹介しますので元句探しの絵解きをお楽しみください。

#### ●ををぎの黒いのに志らほがめいる

元句：沖の暗いのに白帆が見える



江戸から明治にかけて流行ったかっぽれの歌詞「沖の暗いのに白帆が見える。あれは、紀の国みかん船」。みかんや材木で巨万の富を得た紀伊国屋文左衛門、通称〈紀文〉を歌った民謡が元句。

民俗学者の柳田國男が明治32年(1899)、棚沢峰集落に福島文長宅を訪ねた朝、縁側から羽田の沖に白帆が見えたと言った著書『後狩詞記(のちのかりことばのき)』に書いています。



#### ●さみのかわりの地藏様

元句：賽の河原の地藏様

三途の川で小石を積み上げる子供を地獄の鬼が邪魔するが地藏様に救われる話。

「賽の河原」を「賽の代わり」と言っ、て壺ふりの男が描かれた楽しい地口絵です。



#### ●冗談ばかり後生らく

元句：十三ぱっくり毛十六現代では、「後生楽」という言葉は耳慣れないので知らない人が多いかもしれません。

江戸時代に出版された『駄洒落早指南(だじゃれはやしなん)』に掲載されているもので言ってみれば、子女の性教育地口のようなもの。当時の川柳に「十三と十六ただの年でなし」とか、「十六で娘道具揃うなり」などがあります。話題が下世話になりそうなので次は、平安時代に5歳で天皇になった崇徳院の和歌です。

#### ●われてもつける茶わんとぞ思ふ

元句：われても末に逢はんとぞ思ふ



元句は、百人一首でおなじみの「瀬をはやみ岩にせかるる滝川の われても末に逢はむとぞ思ふ」。

当時、江戸っ子にとって百人一首は常識だったようですが、21世紀、朝ドラで落語の『崇徳院』が「せをはやみー」で知られるようになり、現代の我々世代にも記憶に新しい歌のひとつ。

最後は、ご当地自慢のワサビの効いた地口です。

#### ●わさびがわるけりゃ鼻かもう

元句：私が悪けりゃ謝ろう。

丹生神社の地口行灯は、江戸時代から明治時代のものまで50種ほどあり、簡単に元句が判るものから難解で意味不明のものまでいろいろあります。



真夏の暑い時期ですが、クイズ番組に挑戦するような気持ちで現地を訪ね、絵解きをお楽しみください。(岡崎 学)

※参考資料：奥多摩山里歩き絵図No.4「丹三郎」

## 「来させえ」アンケート結果<その2 最終>

1月にご協力いただいた方々の意見「奥多摩の魅力」を、原文のままお伝えし最終報告とします。ご協力ありがとうございました。

- 四季折々の自然と山村風景が美しい
- 深い沢と標高差のある山頂、緑深き山稜
- いつも眺めている山へ、自分が登れる、知ることの魅力はおおきいです。
- 都心から2、3時間ほどの移動時間にもかかわらず豊かな森や溪谷があり、素晴らしい滝も多く、整備された登山道が多い。
- 大規模な大自然と林業の歴史
- 急峻ではあるが、水源林としての美しい森林、石灰岩地という特殊な地質と植物、そこに生息する動物たちとのかかわり、渓流水がよいと思う。
- 自然の奥深さ、1人ではちょっと怖いくらいの大自然・自然の世界を知ることができます。
- 人柄・水・景色
- 日帰りで観光名所や登山を楽しめる魅力がある。奥多摩は大自然を背景にした観光資源が無限にあり、都市近郊からのアクセスもよく観光スポットとして人気度が高い。
- 都心から近いところに自然と歴史が沢山あります。
- 原生林、溪谷、なんでも
- 自然と歴史そして植物

### — 豆知識 —

秩父多摩国立公園は昭和25年(1950年)、7月10日に16番目の国立公園に指定され、奥多摩町の全域がその中に含まれています。指定エリアは東京・埼玉・山梨・長野の一都三県にまたがりますが、最大面積を占める山梨県の名称が冠されていないことから、平成12年(2000年)に秩父多摩甲斐国立公園と名称変更されました。

日原出身の大館勇吉氏はその著書『奥多摩歴史散歩』の中で、「奥多摩の国立公園は全域が山紫水明—親愛できる山と川、懐を開いて愛児を待つ母にも似た感情を抱かせつつ遊子を受け入れる国立公園といえましょう。」と述べています。

皆さん、また奥多摩で会いましょう。

## 夏から秋 奥多摩山歩き イベント案内 8月から10月

- No.16 8月 8日(木) 鶏冠山(黒川鶏冠山)
- No.17 8月 20日(火) 御岳山のレンゲショウマ
- No.18 9月 4日(水) 高水山・岩茸石山
- No.19 9月 25日(水) 御前山(ステップ雲取山)
- No.20 9月 27日(金) フットパス海沢農園
- No.21 10月 2日(水) 海沢三滝
- No.22 10月 15、16日(火、水) 雲取山(富田新道)
- No.23 10月 18日(金) 柳沢峠
- No.24 10月 23日(水) 山里歩き(峰集落)

### 山での熱中症(脱水症)対策

【症状】:めまいや頭痛、眠気、吐き気等、人によって差がある。進行が進むと、自力で歩行困難、転倒、気を失うなど。

#### 【現地での処置の仕方】

1. まず水分を2リットルは摂る(経口保水液やスポーツドリンクなどが良い、少しずつ与える)
2. 体温を下げる努力(日陰に入り、身体を扇ぐ。少し水を掛けて濡れた状態であおぐと気化熱でより冷却効果あり・首や脇を冷やす)
3. 横になって足を上げる(血液を脳と心臓に集める。脳が一番影響を受け、死に至ることも)

#### 【予防策】(殆どの人が登山前から脱水傾向にある)

1. 朝食時  
朝食プラス500ccの水分を摂る(朝、一度尿が出た後、もう一度出ないと身体に水分が循環し、潤ったことにならない)
2. 登山中  
こまめに休み、意識して水分を摂る(運動をいったん停止することで、身体の熱の燃焼を止められる)  
少しゆっくり登る、できるだけ荷物を軽くする、涼しい時間帯に登る等

※ 脱水症は水を飲むことで治せるが、熱中症はそれだけでは熱の管理ができない)

(参考 「岳人」2018年12月号)

次号発行予定:令和元年10月15日

発行	一般社団法人 奥多摩観光協会
住所	〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話	0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集	名人・達人観光ガイドの会